

「山形県政治塾」設立趣意書

今日わが国は内外の深刻な問題に直面しています。

教育の荒廃や家族崩壊は日増しに顕著で青少年による凶悪犯罪、以前は考えられなかったようなショッキングな事件が日常茶飯事のように多発しております。

一方 拉致問題では、まともな主権国家なら当然取っている筈の対応すら取れない情ない現状を見ると他国からの圧力に右往左往、国として自己決定能力を喪失して国際社会の荒波の中で漂流する日本の姿は誠に危ういものと思わざるをえません。

戦後、焦土と敗北から国民の精進努力によって経済大国といわれるまでに発展をみました。しかし、その奇跡的な復興と繁栄の陰で先人が培い育ててきた伝統文化は軽んじられ、光輝ある歴史は歪められ、国を護り社会公共に奉仕する精神は失われ、自己中心と魂なき経済至上路線の風潮が社会に蔓延、いまや国家溶解へと向かいつつあります。

国民が情性に流れ直面している危機から目をそらし、その根本原因を認識できない。

そして政治が日本再生に向け、国家の根本的改革に真正面から取り組む強い意志と手だてを持つことができないことこそ本当の危機ではないでしょうか。

ではこれらの様々な問題を引き起している混乱の原因は一体奈辺にあるのか。

連合軍が植えた「戦後リベラリズム」の毒、つまり占領政策の全てを丸呑みしてしまったこと。「平和」「人権」「行き過ぎた個人尊重」等といった憲法が掲げる「国家否定・個人礼賛」のイデオロギーの注入は、個の権利、自由だけを野放図に要求し、内部から解体の危機を招いてしまっております。

一方 わが国の政治は一向にこうした問題の本質を自覚することなく、只 経済的利益のみを求め続け上滑りな「改革」論議に明け暮れていたのではなかったのか。

今、我々がなすべきはこの「理念」を根本的に見直し転換していくこととあります。

国家が他国に侵略されたり、主権が崩壊してしまつては人間的な、個が尊重される平和で秩序ある社会などあり得ません。

まず第一に政治は「国民の物語」・国家の根幹が歴史によって形成された精神文明であり、民族の歴史は正しい位置づけのもと国民に語りつがれそれを守る戦いに立ち上らなければなりません。

戦後社会のタブー、悪しき風潮に立ち向かい正しい理念を踏まえた政策プログラムのもと民族の精神をとりもどし、日本の蘇生を図ることこそ政治に課せられた使命であります。

このような中で、昨年、山形県護国神社の奉賛顕彰を通して世界の平和と人類の幸福に貢献し、誇りある日本民族の歴史と伝統を継承する人づくり、国づくりの拠点「山形県護国神社を参拝する議員有志の会」が発足いたしました。この「有志の会」を母胎に国を愛する志高き議員と県民有志が結集し、山形県から日本再生の運動を展開していこうではないか。

そして自己研鑽、修養の道場として人材育成し、山形から日本を変革、日本再建のリーダーを世に送り出していこうと、「この度「山形県政治塾」を設立する運びとなりました。

つきましては、何卒趣旨に「賛同の上」、「参加」、「推薦」を賜われますよう、「案内」申し上げます。

平成十六年四月二十四日

山形県政治塾

発起人 沼澤 善栄